

目次

研究要旨	2
第1章 共通評価項目の信頼性と妥当性に関する研究(4)～因子分析による検討	4
第2章 共通評価項目の信頼性と妥当性に関する研究(11)～SAI-J、DAI-30と共通評価項目 下位項目との関連	15
第3章 共通評価項目の信頼性と妥当性に関する研究(12)～地域生活に対する自己効力感 (SECL)と共通評価項目との関連	21
第4章 共通評価項目の信頼性と妥当性に関する研究(13)～生活満足度、AUDIT、IQと共通評 価項目との関連	31
第5章 共通評価項目の信頼性と妥当性に関する研究(14)～これまでの研究の概観から示さ れる各項目の特徴	38
第6章 共通評価項目の信頼性と妥当性に関する研究(15)～退院申請時共通評価項目による 精神保健福祉法再入院の予測	53
第7章 共通評価項目の信頼性と妥当性に関する研究(16)～症状悪化による精神保健福祉法 入院の予測	73
第8章 共通評価項目の信頼性と妥当性に関する研究(17)～退院後の問題行動の予測	82
第9章 共通評価項目の信頼性と妥当性に関する研究(18)～退院後の自傷・自殺企図の予 測	106
第10章 共通評価項目の信頼性と妥当性に関する研究(19)～退院後の暴力の予測	117
第11章 共通評価項目の信頼性と妥当性に関する研究(20)～入院中の暴力の予測	147
第12章 共通評価項目の信頼性と妥当性に関する研究(21)～入院中の自殺企図の予測	176
第13章 共通評価項目の信頼性と妥当性に関する研究(22)～通院処遇への移行まで期間の予 測	206
健康危険情報、研究発表、知的所有財産の登録・出願状況	281
研究成果の刊行に関する一覧表	282

要旨：

平成 25 年度の本研究報告書は過去の収集データの解析結果とそのまとめ、ならびに今年度収集したデータの解析による報告をまとめた以下の全 13 章で構成する。なお、各章のタイトルには、共通評価項目の信頼性と妥当性に関する研究を本研究班以前に開始し、逐次発表してきた時からの通し番号を付けている。

第 1 章 共通評価項目 17 中項目および 61 小項目の因子分析（研究 4）

共通評価項目下位項目の因子分析を行うことで構成概念妥当性の検証を行うと共に、項目のグループングについて検討した。

第 2 章 SAI-J、DAI-30 と共通評価項目下位項目との関連（研究 11）

病識、服薬観に関する尺度との相関を評価することで、共通評価項目の【病識】【コンプライアンス】および【病識】の小項目の収束妥当性を検証した。

第 3 章 地域生活に対する自己効力感(SECL)と共通評価項目との関連（研究 12）

地域生活に対する自己効力感尺度との相関から収束妥当性を検証した。

第 4 章 AUDIT、IQ、生活満足度との関連（研究 13）

AUDIT、IQ、生活満足度と共通評価項目の各項目との相関から収束妥当性を検証した。

第 5 章 これまでの研究の概観から示される各項目の特徴（研究 14）

今年度のデータ収集をする以前、研究 13 までの研究結果をまとめ、共通評価項目の各下位項目の特徴を概観した。

第 6 章 退院申請時共通評価項目による精神保健福祉法再入院の予測（研究 15）

第 6 章以降は全て今年度収集したデータから、共通評価項目の各下位項目がそれぞれの事象をどの程度予測する力があるか、COX 比例ハザードモデルおよび生存率曲線の解析を通じて検証した。第 6 章では精神保健福祉法再入院の予測について、予測妥当性を検証した。

第 7 章 症状悪化による精神保健福祉法入院の予測（研究 16）

精神保健福祉法入院を症状悪化によるものだけに限り、各項目の予測妥当性を検証した。

第 8 章 退院後の問題行動の予測（研究 17）

退院後の問題行動についての予測妥当性を検証した。

第 9 章 退院後の自傷・自殺企図の予測（研究 18）

退院後の自傷・自殺企図についての予測妥当性を検証した。

第 10 章 退院後の暴力の予測（研究 19）

退院後の問題行動について、何らかの暴力に限り、その予測妥当性を検証した。

第 11 章 入院中の暴力の予測（研究 20）

入院時初回評価の共通評価項目の各項目が、入院中の暴力をどの程度予測するのか、予測妥当

性を検証した。

第 12 章 入院中の自殺企図の予測（研究 21）

入院時初回評価の共通評価項目の各項目が、入院中の自殺企図をどの程度予測するのか、予測妥当性を検証した。

第 13 章 通院処遇への移行まで期間の予測（研究 22）

初回入院継続申請時の共通評価項目の各項目が、通院処遇へ移行するまでの期間をどの程度予測するのか、予測妥当性を検証した。

第 6 章から第 13 章に渡る予測妥当性の研究結果は、それまでの研究結果と併せ、次年度に共通評価項目改訂案を作る際の基礎となる。

研究協力者

高橋昇（国立病院機構花巻病院）

（コアメンバー）

西村大樹（岡山県精神科医療センター）

（コアメンバー，第 3 章執筆）

砥上恭子（国立病院機構菊池病院）

（コアメンバー，第 2 章、第 4 章執筆）

松原弘泰（静岡県立こころの医療センター）

小片圭子（群馬県立精神医療センター）

山本哲裕（国立病院機構東尾張病院）

荒井宏文（国立病院機構北陸病院）

深瀬亜矢（国立病院機構北陸病院）

鈴木敬生（国立精神・神経医療研究センター病院）

今村扶美（国立精神・神経医療研究センター病院）

瀬底正有（神奈川県立精神医療センター芹香病院）

竹本浩子（国立病院機構やまと精神医療センター）

中尾文彦（国立病院機構やまと精神医療センター）

野村照幸（国立病院機構さいがた病院）

大原薫（国立病院機構さいがた病院）

松下亮（国立病院機構さいがた病院）

中川桜（国立病院機構下総精神医療センター）

堀内美穂（国立病院機構下総精神医療センタ

ー）

古賀礼子（鹿児島県立始良病院）

河西宏実（東京都立松沢病院）

畔柳真理（東京都立松沢病院）

常包知秀（国立病院機構鳥取医療センター）

横田聡子（国立病院機構小諸高原病院）

長井史紀（国立病院機構小諸高原病院）

前上里泰史（国立病院機構琉球病院）

占部文香（長崎県病院企業団長崎県精神医療センター）

高野真弘（国立病院機構神原病院）

有馬正道（国立病院機構神原病院）

天野昌太郎（国立病院機構肥前精神医療センター）

大賀礼子（国立病院機構肥前精神医療センター）

桑本雅量（山口県立こころの医療センター）

藤田美穂（埼玉県立精神医療センター）

笠井正一（山梨県立北病院）

富山孝（茨城県立こころの医療センター）

島田雅美（栃木県立岡本台病院）

小川佳子（国立病院機構久里浜アルコール症センター）

古野悟志（国立病院機構久里浜アルコール症センター）

山内健一郎（大阪府立精神医療センター）

菊池安希子（国立精神・神経医療研究センター精神保健研究所）